

- 子供たち一人一人の学力向上を目指して
- 科学の甲子園ジュニア山梨県大会について
- スーパーサイエンスハイスクール事業の取組／県立甲府南高等学校
- N I E 実践指定校としての活動／県立富士河口湖高等学校
- 地域と連携したビブリオバトルの取組／県立北杜高等学校
- レクで学校丸ごと元気アップ！事業
- 博学連携の推進－学校教育に考古博物館をご利用ください－
- 学校教育を支援する実践的な研究を目指して
- 学校紹介／身延町立久那土小学校・県立甲府工業高等学校
- 県立美術館「コレクション企画 「命をめぐる物語」
- 県立文学館「新収蔵品展 お宝そろいぶみ」
- 県立考古博物館「わたしたちの研究室」作品展開催
- 県立博物館冬期シンボル展「天の虫のおきみやげー山梨の養蚕信仰ー」
- 山梨近代人物館人物紹介／杉浦 譲
- 山梨の文化財／安道寺遺跡出土品
- 家読(うちどく)ポップ作品を募集します

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「私のスイーツ計画」

山梨県立ろう学校

なかしま なごみ  
高等部 2 年 中島 和

あしざわ なおこ  
指導者：芦澤 直子 教諭

山梨県教育委員会

# 子供たち一人一人の学力向上を目指して

～ 全国学力・学習状況調査結果から考える ～

義務教育課

## 1 全国学力・学習状況調査の分析

### (1) 教科に関する調査

|            | 小学校調査  |       |         |        |         | 中学校調査   |       |         |        |         |
|------------|--------|-------|---------|--------|---------|---------|-------|---------|--------|---------|
|            | 国語     |       | 算数      |        | 理科      | 国語      |       | 数学      |        | 理科      |
|            | A      | B     | A       | B      | AB      | A       | B     | A       | B      | AB      |
| 平均正答数(本県)  | 9.6/14 | 5.8/9 | 11.9/16 | 5.5/13 | 14.5/24 | 25.1/33 | 6.0/9 | 22.9/36 | 6.2/15 | 13.5/25 |
| 平均正答数(全国)  | 9.8/14 | 5.9/9 | 12.0/16 | 5.9/13 | 14.6/24 | 25.0/33 | 5.9/9 | 23.2/36 | 6.2/15 | 13.3/25 |
| 平均正答率(本県)  | 68.5   | 64.8  | 74.1    | 41.9   | 60.4    | 76.1    | 66.2  | 63.6    | 41.2   | 54.1    |
| 平均正答率(全国)  | 70.0   | 65.4  | 75.2    | 45.0   | 60.8    | 75.8    | 65.8  | 64.4    | 41.6   | 53.0    |
| 全国平均正答率との差 | -1.5   | -0.6  | -1.1    | -3.1   | -0.4    | 0.3     | 0.4   | -0.8    | -0.4   | 1.1     |

※Aは「知識」、Bは「活用」を指します。理科については平成24年度の調査結果をもとに比較しています。

4月に実施した「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果が8月に公表されました。全体の概要として、本県の児童生徒の教科に関する調査の平均正答率は、全国の平均正答率の±5%の範囲内（-3.1%から+1.1%）にあり、ほぼ全国と同等という結果です。

しかし校種別の状況を見てみると、小学校では、国語A・B、算数A・B、理科ともに全国の平均正答率に届きませんでした。中学校では、国語A・Bと理科は全国の平均正答率を上回り、数学A・Bは全国の平均正答率に届きませんでした。

また、無解答率については、小学校では全国、県ともに4.8%でほぼ同じであり、中学校では全国6.2%、県5.4%で、全国より無解答率は低い状況にあります。これは、子供たちが粘り強く問題を解いている表れであると考えます。

県教育委員会では、得点だけでなく、誤答の類型を分析することで、「どこにつまずきがあるのか」等を明らかにするとともに、授業改善のポイントをまとめ、各学校における具体的な課題改善につなげています。

### (2) 質問紙調査

児童生徒質問紙調査からは、規範意識、自己肯定感等いずれの項目においても全国値を大きく上回っていることが明らかになりました。この他にも、「学校に行くのは楽しい」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と感じていたり、地域の行事へ積極的に参加したりするなど、本県の児童生徒が健やかに成長している様子が伺えます。

課題としては、小・中学校ともに、「テレビやDVDを見たり聞いたりする時間が多いこと」「学校の授業時間以外の学習時間が短いこと」などが挙げられます。家庭での学習時間については、昨年度と比較し改善の傾向が見られますが、今後は家庭学習の内容の充実も求められます。学校と家庭が連携する中で、質的な面や子どもの自主性といった多角的な視点から、児童生徒の実態に合わせて学ぶ意欲を喚起するような課題の工夫を図っていくことが必要です。

また、学校質問紙調査からは、「小学校と中学校の連携」や「学習の目標（めあて・ねらい）」とまとめが児童生徒に意識される授業づくりを行うことが課題として挙げられ、今後の取組の中で強化していきたいと考えます。

## 2 全県的に取り組むこと ～「重点4項目」～

県教育委員会では、9月29日に、公立小・中学校の全校長を対象とした臨時校長研修会を開催しました。全国学力・学習状況調査結果の概要や今後の取組について説明し、県下で共通理解のもと学力向上を目指して取り組むことを確認しました。

今年は、「学校全体での課題の共有化」「家庭学習の在り方、課題の与え方についての一層

の推進」「小中連携の重要性についての理解」「学校の組織的対応の定着」の4つを「重点項目」として掲げました。特に、学力向上に向けては、学校の組織的な対応や取組が重要であり、学校長のマネジメントのもと、各学校の実態や課題に応じた創意と工夫ある取組を推進しています。

### 重点4項目

- 1 自校の結果を、県や国の分析と比較し、学校全体で課題の共有化を図る**
  - ・調査問題を実際に解いたり、課題を校内研で取り上げたりして、各学校における系統的な指導体制を確立しましょう。
- 2 家庭学習の在り方、課題の与え方について、一層の推進を図る**
  - ・児童生徒の実態に即した宿題の工夫について、「量から質への転換」を検討し、家庭と連携した取組を進めましょう。
- 3 中学校区内の小中連携の浸透を図る**
  - ・中学校区内における小中の指導内容や指導方法について、共通理解する場や機会を設けましょう。
- 4 学力向上に向けた学校の組織的対応の定着を図る**
  - ・指導主事による「学力向上に向けての組織的な対応や取組」に特化した学校訪問を活用しましょう。

## 3 「学力向上フォーラム2015」、「学力向上の集い」の開催

9月29日に中学校、10月1日に小学校対象の「学力向上フォーラム2015」を開催しました。

まず、全国学力・学習状況調査の各教科の結果の分析と授業改善のポイントについて担当指導主事から説明を行い、特に、全国の平均正答率を大きく下回る設問に着目して、具体的な授業アイデアを示しました。次にポスターセッションでは、授業改善プラン実践事業推進校（県内8地区に配置されている16の推進校）や近隣の学校、総合教育センターが学力向上の取組について発表しました。児童生徒の課題に沿った具体的な授業改善の実践が発表され、熱心に耳を傾ける参加者の姿が見られました。各推進校で行われている研究・実践は、決して特別なものではありません。すべての学校が自校の課題を把握し、授業改善に向けて取り組む必要があり、今後、さらなる推進を図っていきたいと考えます。また、早稲田大学田中博之先生と東京学芸大学清野辰彦先生をお招きして、「確かな学力の定着と向上を図る授業改善のあり方」をテーマにパネルディスカッションを行いました。小学校では、他県の例を挙げ、学力向上に成果を上げている学校の特徴を示しながら、子どもの主体的、自立的な学習力の必要性について考え、中学校では、全国学力・学習状況調査の数学の問題を挙げながら、言語活動の量から質への転換について考え、小中連携についても意見交換がされました。課題を共有しながら、子供たちの確かな学力の定着と向上を図るための方策について深く考える機会となりました。

さらに、11月から12月にかけて、「学力向上の集い」が県下5地区で開催されました。これは、家庭学習について保護者や地域とともに考える機会として、ここ数年実施しているものです。今年は、「親子関係の築き方」や「求められる学力を学校と家庭がどう連携して育むか」等をテーマに行われました。



ポスターセッションの様子



# 科学の甲子園ジュニア山梨県大会について

義務教育課

## 1 ねらい

科学の甲子園ジュニア山梨県大会は、県内の中学生が集い、科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会との関連に気付き、科学を学ぶことの意義を実感できる場を提供する大会です。また、科学に関する興味・関心を高めるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成することをねらいとして始まり、今年で第3回目を迎えました。

子供達の「理科離れ」といわれ久しいですが、「理科好き」な生徒の交流の場であるとともに、理科ばかりでなく科学全般に興味を持つ生徒が増えていくことを願い開催している大会です。

## 2 経緯

平成22年6月の政府閣議決定「新成長戦略工程表」に、理数教育の強化と理系進学促進に向けた取組の一環として高校生対象の「科学の甲子園」が明記され、平成23年度に第1回大会が開催されました。そして、平成25年度には「科学の甲子園」の中学生版として、第1回科学の甲子園ジュニア全国大会が開催されました。山梨県大会は、この全国大会への出場校を選抜する大会という面ももっています。第1回大会は駿台甲府中学校・山梨大学附属中学校、第2回大会は甲陵中学校・山梨大学附属中学校、第3回大会は山梨学院大学附属中学校・駿台甲府中学校が県代表となりました。



## 3 内容

中学校1・2年の生徒を対象として、1チーム3名で理科・数学・情報における複数分野の筆記競技と実技競技に協働しながら挑戦します。筆記競技も学校で習う知識を活用するもの以外に、その場で得た知識を活用するものもあり、考える楽しさを味わえるものとなっています。また、実技競技は、数学的な知識・技能を活用するものや理科学的な実験を行うものなど様々なタイプの問題が出題されています。

筆記競技と実技競技の総合点を競い、1位及び2位のチームには全国大会の出場権が与えられ、6名で山梨県代表チームを編成して全国大会へ出場します。第1回全国大会では実技競技②で第5位に入賞し、リテン賞（技能賞）を獲得しています。



## 4 日程

- 6月上旬 科学の甲子園ジュニア山梨県大会出場校募集開始
- 7月上旬 募集締切
- 8月末 科学の甲子園ジュニア山梨県大会開催
- 12月上旬 科学の甲子園ジュニア全国大会

## 5 今後

多くの生徒に大会に参加してもらうために、本大会の意義を県内の生徒に伝える取組を行う予定です。そして競技を通して、ノーベル賞を受賞された、大村 智先生の理念を具現化できるような人材を育成したいと考えております。



## 県立甲府南高等学校SSH事業の取組について

～未来を拓く「やまなし」人づくりに向けて～

県立甲府南高等学校SSH推進部

### 1 SSHとは

未来を担う科学技術系の人材育成をめざし、理数系教育に力を入れる高校を文部科学省が支援する事業がSSH（スーパーサイエンスハイスクール）です。全国では203校が、山梨県では、本校も含め7校が指定を受けています。本校は、平成16年度に県内で初めて指定され、本年度は第3期4年次、通算で12年目となりました。第3期では「理数系教育のパイオニアハイスクールをめざして」を掲げ、様々な取組を行っております。

### 2 SSI、SS探究講座

山梨大学や県内外の研究機関等を訪問する1学年対象のSSIを9講座、2学年対象のSS探究を6講座開講しています。ロボット講座、JAXA講座、生物講座、電子顕微鏡講座、山梨大学工学部講座、臨海実習、神岡研修、筑波研修、医学部講座、ワイン講座など、大学・研究施設の見学や実験・実習を通して、最先端の科学を学びます。



JAXA相模原キャンパス



スーパーカミオカンデ

### 3 ワークショップ（部活動）

本校には「物理宇宙」「物質化学」「生命科学」「数理情報」の4つの自然科学系の部活動があります。研究成果を様々な大会で発表し、「全国総文祭優秀賞」「日本学生科学賞県教育長賞」など、毎年上位入賞を果たしています。また、科学館でのボランティアクルーへの参加や地域の小中学校への「出前授業」も実施しています。



全国総文祭滋賀大会



山城小学校出前授業



## 4 サイエンスフォーラム（講演会）

国内外の第一線で活躍されている研究者や大学教授による講演会を年7回実施しています。



東北大学 島津武仁 教授



JAXA 藤平耕一 開発員

## 5 課題研究

2学年では、さまざまな自然現象から疑問を持ったことをテーマに、生徒4～5名で1チームをつくり課題研究に取り組みます。2月には外部の方も招いて研究発表会を行います。



課題研究に取り組む生徒



研究発表会

## 6 グローバル化への取組

平成20年度より、米国への海外研修を毎年実施するとともに、全生徒が科学英語をオリジナルテキストを用いて学ぶ「サイエンスイングリッシュ」を実施し、国際人として活躍できる人材を目指します。



インドネシア訪問団来校



海外研修（ロサンゼルス）

## 7 おわりに

SSH指定後、理系志望者が生徒全体の7割を超えるとともに、全国レベルの大会で入賞する研究も数多く出ています。今後もこの事業をとおして、世界で活躍できる人材を育てたいと思っています。

## N I E 実践指定校としての活動

～ その方法研究と実践報告 ～

県立富士河口湖高等学校

### 1 実践するにあたって－組織としての取組－

日本新聞協会より平成26、27年度のN I E 実践指定校に認定されたことを受け、「自ら学び主体的に判断し、行動できる生徒の育成を目指す指導法の研究」を主題に、「N I E を導入し、社会への関心、情報活用能力、国際理解の向上を図る」を副主題として設定し、生徒たちの活字離れを防ぎ、関心を社会に向けさせ、自己実現を育成していくこととしました。初年度4月に校内組織を編成し、事業に向けて1学期に2回の講演を開催して研修を積みました。

### 2 総合的な学習の時間－意見文を書く－

初年度は9月から、今年度は5月からそれぞれ4ヶ月、6社の新聞から生徒各自が記事を選び、意見を書きました。全7回にわたって実施しましたが、回を重ねるごとに筆の動きがよくなり、その中の優秀作品は山梨日日新聞の「10代の意見」に掲載されています。長期休暇には「新聞スクラップ作り」を課題とし、全国コンクールで入賞しました。



新聞スクラップ優秀作品

### 3 N I E の日常化を－公開授業を実施－

本年度4月25日、「N I E 公開授業」を開催しました。各新聞社、近隣学校の教員、保護者が参観に訪れ盛況でありました。また、各教科においては日頃の平常授業の中で、N I E 活動を積極的に導入し、特に毎年2学期に実施している相互授業参観ではN I E の取組を公開しました。研究部では教職員および生徒全員にこれらの活動の様子をリアルタイムで伝えるために、毎月『N I E 通信』を発行しています。



新聞記事を使った授業

### 4 N I E 委員会－壁新聞制作－

N I E 系の生徒によって組織されたN I E 委員会では、総合的な学習の時間に書いた新聞記事に対する意見の優秀作品を壁新聞にして、毎月1回、「河高ミニギャラリー」に掲示しています。系の生徒が独自に執筆・構成する部分もあり、よい出来映えです。

### 5 部活動での取組

社会科学部では山梨日日新聞社の富士吉田支社を訪問し、約2時間にわたって社内見学や実際の取材、記事の編集などについていろいろ話を伺い、訪問後、「職場訪問新聞」を制作しました。

英会話部では新聞に掲載された俳句をもとに、俳句について勉強した後、各自でも俳句を作り、それを英語の俳句に変えることも行っています。



# 地域と連携したビブリオバトルの取組

県立北杜高等学校

## 1 はじめに

本校では読書への啓発活動として、昨年度からビブリオバトルに取り組んでいます。ビブリオバトルとは、おすすめの本を持ち合って書評を行い、発表者と観客が一番読みたくなったチャンプ本を決めるゲーム感覚の知的書評合戦のことです。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」というコンセプトで行われるビブリオバトルは、たった5分の紹介ですが、その人の人柄や興味関心を垣間見ることができ、「本を通して人とつながる」という貴重な経験となります。今回は、地域と連携して行った取組について紹介したいと思います。

## 2 取組の概要

| 年月     | 内容                       |
|--------|--------------------------|
| H26.11 | ビブリオバトル研修会 (山梨ことぶき勸学院)   |
| H26.12 | ながさか図書館ビブリオバトル (ながさか図書館) |
| H27. 1 | 第1回北杜高校ビブリオバトル (北杜高校)    |
| H27. 2 | サードステージビブリオバトル (県立図書館)   |
| H27. 6 | 第2回北杜高校ビブリオバトル (北杜高校)    |
| H27. 7 | ながさか図書館ビブリオバトル (ながさか図書館) |
| H27.10 | ビブリオバトルやまなし2015 (甲府東高校)  |

北杜市長坂町では、本校を含めた4校（長坂小学校・長坂中学校・甲陵中学校・北杜高校）で平成23年よりブックトークで交流を図っており、年3回の協議会において読書活動の推進について話し合いを行っています。その中でビブリオバトルを通じて生徒の交流を持ってないかという提案があり、昨年12月、な



校内でのビブリオバトルの様子

がさか図書館で第1回のビブリオバトルが行われました。本を個人ではなく人と共有して楽しむことができるビブリオバトルは、お互いの距離を近くする力もあり、終了後互いの読書について積極的に意見を交換する様子も見られました。生徒たちの感想から、「自分の好きな本について語ることは楽しく、人の交流の場としても楽しむことができるので、多くの人が興味をもってくれたらいいと思う。」「本が好きな人にも苦手な人にもビブリオバトルを体験して楽しんでほしい。」などの意見が聞かれ、有意義な機会となりました。このことをきっかけに各学校の授業でもビブリオバトルが取り入れられ、活動も広がっています。本校でもこれまで2回のビブリオバトルを行い、最初は躊躇していた生徒も、本を紹介し人とつながる楽しさを知り、最近では生徒達から、「もっとこの活動を広げたい」という意見が聞かれるようになりました。

## 3 成果とまとめ

仲間が紹介した本は、同世代だからこそ共感できる部分も多くあり、自然と手に取る姿もみられました。本にはあまり興味がない生徒にも、人の書評を聞くことで新しい本と出会える貴重な場となっています。本を紹介することで生徒達は、深く本と向き合い、新たな自分と出会うことができます。わかりやすく紹介するためには、どのような表現が適するのか、展開の方法はどうすればよいか、試行錯誤を重ね表現力を高めていきます。そして、地域の中高生との交流によって自分の世界が広がっていきます。このように地域と連携したビブリオバトルの取組は、生徒達にとって読書活動だけにとどまらない影響があります。ビブリオバトルを通して、人に伝える力、言葉にする力を磨き、人とつながっていく。そんな豊かな経験を今後も支援していければと思います。

山梨県立北杜高等学校

司書教諭 矢崎香織

司書 窪田美保子



# レクで学校丸ごと元気アップ！事業

～「遊ぼうよ！ さそえばできる 笑顔の輪」～

## スポーツ健康課

### 1 はじめに

本県の子どもたちの体力の現状は、概ね低下傾向に歯止めがかかっているものの、昭和60年頃と比較すると依然として低い水準にあり、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が進んでいます。

このため、県教育委員会では、学校だけでなく家庭や地域が一体となって体力向上を目指すことを目的に、一昨年度から本事業を進めてきました。

### 2 事業の概要

県教育委員会、公益財団法人日本レクリエーション協会、山梨大学、立教大学ウエルネス研究所によるコンソーシアムが取組を企画し、それをもとに、地域スポーツ関係団体や県内の山梨大学・県立大学・山梨学院大学・都留文科大学と連携・協働し、モデル校での具体的な取組を展開していきます。

※今年度のモデル校（4校）

東中 南西中 若草中 白州中

8月20、21日に協力大学の学生やモデル校の関係者、地域スポーツ関係者を対象に「運動あそび楽習会」を実施しました。遊びをリードするプレイリーダーとしての心得や実際に実施する「遊び」の指導法などを研修しました。

※活用する主な遊び

ゴムダン、Sケン、門番じゃんけん、宝とり、円形ドッジボール、リバーシ鬼ごっこ 等



の遊びを紹介し、子どもたちはプレイリーダーに遊びを教わりながら一緒に運動体験をします。保護者や地域の協力者も参加し、一緒に遊びを体験したり、遊びの指導ポイントを学んだりします。

また、子ども・保護者・教師等を対象としたトップアスリートによる講演会を実施しています。子どもたちの運動への興味・関心を高めたり、学校や保護者が体力向上の重要性の理解を深めたりすることにつながります。

### (2) 元気アップ・タイム

始業前や放課後にプレイリーダーと一緒に「運動・あそび発見市」で体験した遊びを楽しみます。保護者や地域の協力者には、遊びのサポーターとなっていただきます。

子どもたちが、ルールや場を工夫して遊びに取り組み、主体的に楽しむことができるようにしていきます。



様々な遊びを紹介

### 4 今後の展開

3年間の継続した取組により、子どもたちが遊びに親しむ姿が見られています。本事業を参考に、今年度は県事業としても「地域で取り組む学校元気アップ事業」を展開しています。様々な遊びが日常的に行われ、体力向上へと発展・定着していくことを願っています。



白州中学校「運動・あそび発見市」より

### 3 モデル校での主な取組内容

#### (1) 運動・あそび発見市

大学生を中心としたプレイリーダーがいくつか

## 博学連携の推進

－ 学校教育に考古博物館をご利用ください－

県立考古博物館

◆考古博物館では、学校教育現場との連携を図るプログラムを多数用意しています。

### 1 考古博物館と公園内の古墳を案内します

校外学習、社会科見学などで当館をご利用の際には、教育課程に合わせて古墳や館内の案内を行っています。

また、古代の生活を体験するメニューも用意されており、「火起こし体験」や古代のアクセサリー「勾玉作り」（別途材料費必要）などが行えます。



火起こし体験の様子

### 2 古代衣装のレプリカを貸し出しています

弥生・古墳・飛鳥時代の衣装を再現した古代衣装レプリカの貸出を行っています。社会科の時間や総合学習の時間に自分で着付けをし、試着して古代の生活を体感することができます。

### 3 「わたしたちの研究室」の作品を募集しています

総合学習の時間やクラス・学年での社会科の研究、体験などで学んだ成果を発表する機会としてコンクール「わたしたちの研究室」を実施しています。

### 4 職場体験、インターンシップを受け入れています



今年の職場体験の様子

考古博物館では職場体験、インターンシップの受け入れを行っています。イベントの手伝いや収蔵品の展示作業など学芸員の仕事を幅広く学びます。

実習時期・期間・時間などは考古博物館の行事日程を考慮しながら、可能な限りご要望にお応えしています。

### 5 先生方の研修でご利用ください

考古博物館附属施設の風土記の丘研修センターでは、講堂、研修室の使用も可能です。お時間のあるときに見学、研修にお越しください。

利用目的によって団体、個人どちらでも可能で、2か月前から利用受付をしています。予め空き状況等をご確認のうえ、教師の研修会、勉強会等で積極的にご利用ください。

問い合わせ先： 県立考古博物館 学芸課  
TEL 055-266-3881  
FAX 055-266-3882

風土記の丘研修センター  
TEL 055-266-5286  
FAX 055-266-5287

関連HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!



# 学校教育を支援する実践的な研究を目指して

～ 研修主事による研究 一般留学生による研究 ～

総合教育センター 研究開発部

研究開発部は、総合教育センターの基本方針を受け、研究の推進、教育資料の収集、校内研究の支援等を担当しています。今回は本年度の研究内容についてお知らせします。

## 【研修主事による研究】

全体研究テーマとして「学校教育を支援する実践的研究 ―確かな学力の育成を目指して―」を掲げ、多くの学校と先生方の協力をいただきながら、以下の内容で研究を推進しています。なお、教育課程実施状況調査研究は、義務教育課及び学校現場と連携し、全国学力・学習状況調査を補完する形で本県の児童生徒の学力の定着状況を把握し、明らかとなった課題を解決するための授業改善プランを作成しています。

| 研究領域                   | 研究課題  |
|------------------------|---|
| 教育課題研究（主事研究）           | 「確かな学力の育成（国語教育）」に関する研究<br>中学校：1 高等学校：3                        |
|                        | 「確かな学力の育成（理数教育）」に関する研究<br>中学校数学：1 高等学校数学：1<br>小学校理科：1 中学校理科：1 |
|                        | 「確かな学力の育成（音楽・技術教育）」に関する研究<br>中学校音楽：1 中学校技術家庭（技術）：1            |
| 相談支援研究（主事研究）           | 「安心して学習に取り組める環境づくり」に関する研究<br>不登校：1 いじめ：3                      |
|                        | 「特別支援教育の充実」に関する研究<br>小中学校：1 高等学校：2 専門機関との連携：1                 |
| 情報教育研究（主事研究）           | 「ICTの活用」に関する研究<br>小学校国語：1 高等学校数学：1 高等学校工業：1                   |
|                        | 「情報モラル教育」に関する研究<br>高等学校：1                                     |
| 教育課程実施状況調査研究（プロジェクト研究） | 「小6社会・中3社会」に関する研究   |
|                        | 「中3英語」に関する研究  |

## 【一般留学生による研究】

本年度は2名の一般留学生が学校現場より派遣されています。本センター研修主事の指導や学校現場の先生方で組織する研究協力員部会での研究協議を受け、以下の内容で取り組んでいます。

| 研究領域       | 研究テーマ                            |
|------------|----------------------------------|
| 言語活動（小・国語） | 思考・判断・表現する力を高める国語科指導の在り方に関する研究   |
| 教育相談（小・算数） | 教育相談的アプローチによる自己効力感と学習意欲の向上に関する研究 |

## 【研究発表大会】

平成28年2月23日（火）に本センターを会場に開催する研究発表大会において、上述の研究についての詳細を発表します。なお、当日は、早稲田大学大学院教授田中博之先生の特別講演も予定しています。多くの教職員及び教育関係者の皆様の参加をお待ちしております。



## かしこく やさしく たくましい久那土の子

→ 身延町立久那土小学校

本校は身延町の北部に位置し、周りを山々に囲まれた静かな地域にあります。保育所、中学校が隣接し、1kmほど西には高等学校もあることから、地域の方々は、“文教地区”と呼んでおります。昭和30年代には600名近くを数えた児童数は、今年度31名まで減少しましたが、小規模校の特性を生かしながら、様々な教育活動に取り組んでいます。

元気に登校した子どもたちの一日は、15分間の朝読書から始まります。「読書活動の充実した学校づくり」は、本校の最も重視する特色の一つです。年間を通して行う朝読書では、自分の好みの本を読むだけでなく、図書委員（児童）や図書館ボランティアの方々、学校職員による読み聞かせも行っています。秋の“久那土小読書週間”では、ボランティアの方々による“おはなし会”や「好きな本」の総選挙、読書クイズラリー、読書推進の標語・ポスターの募集、図書集会など多彩な催しもあります。さらに、梅雨時の“雨の日読書”や年2回実施する“ミニ図書館まつり”、家読などをとおして、子どもたちは本に親しんでいます。

このような活動の成果もあって、児童の読書熱はたいへん高く、一人平均の貸し出し数は、年間100冊を超えています。これも、豊富な図書予算と1万冊を超える蔵書、そして地域の方々のご協力があればこそその成果だと深く感謝しています。



大型絵本に見入る子どもたち



図書館ボランティアの方々による“おはなし会”

## 技術者となる前に人間となれ

→ 県立甲府工業高等学校

### 1 資格取得も部活動も「ドリカム！」

本校は、「質実剛健」を校訓とし、「技術者となる前に人間となれ」の信条のもと、主体的、創造的に生きる、逞しくもしなやかな心を持ち、豊かな人間性・社会性を備えた工業技術者を育成しています。

今年度、全日制5学科（機械、電気、電子、建築、土木）779名、定時制本科（機械、電気、建築）と専攻科併せて87名の生徒が学業に励んでいます。

平成26年度全国工業高等学校長協会主催ジュニアマイスター顕彰制度（国家資格や検定試験の取得数）において、全日制で5名が特別表彰され、全日制で16名、定時制で2名にゴールドの称号が授与されました。

本年度は、電子科では11月にWRO（World Robot Olympiad）ドーハ国際大会に日本代表として出場しました。また、部活動においても、全定併せて多くの部が全国大会への出場を果たしています。

### 2 未来へのCD音源収録



音源収録中の様子

10月8日（木）の午後、コラニー文化ホールで、校歌等のCDを改めて作成するための音源収録が、生徒と教職員の有志約230名からなる特別合唱団を編成し行われました。

平成29年度に創立100周年を迎える本校は、これからも、人間教育を最重点に「ものづくり」「進学」「部活動」の各分野で全国トップレベルの工業高校を目指し、『スーパー甲府工業構想』を強力に推進し、社会的・職業的自立に必要な知識、技術・技能を育むと共に、地域社会や産業界に貢献できる人材を育成して参ります。



METACの輪  
～甲工生の団結の象徴～



## コレクション企画 — 命をめぐる物語 —

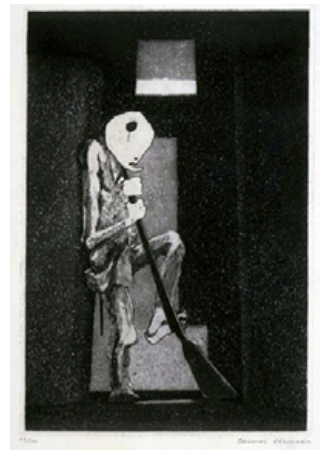
県立美術館

県立美術館冬のコレクション企画として、日本の戦後70年を振り返りながら『命をめぐる物語』と題した展覧会を開催します。

本展では『戦争』を一つのキーワードに据えながら、その周辺に存在する“生と死”“愛と祈り”あるいは“戦争と画家”といった、様々な視点によって描かれた人間と命の根源について、4つの章立てにより紹介します。

中でも浜田知明の《初年兵哀歌》のシリーズやケーテ・コルヴィッツの《鎌を磨ぐ》をはじめとした戦争をテーマに制作された銅版画の他に、“愛と祈り”の章では桑原福保や齋藤静輝らの油彩による《母子像》が一堂に展示されます。また、これらのコレクション以外にも現代美術作家の秋山令一がアウシュヴィッツに取材した大作《象徴とイメージ 近づけない時の流れに I》を出品するほか、葦崎大村美術館所蔵品の中から荻太郎の《死の風景（ポンコツ）》なども特別出品を予定しています。

本展では、約90点の油彩と版画を中心に、人間の歴史と共に繰り返されてきた醜い争いを描いた作品の他に、あらためて命の尊さや儚さ、戦争と平和など、画家たちはどのように表現してきたのか、それぞれの立場や思いにも触れようとするものです。



浜田知明 1954年  
《初年兵哀歌（歩哨）》

### ● 関連イベント情報

- ・ ども美術館「命をめぐる物語」を探検しよう

日時：第1回 1月30日（土）午前10時～11時

第2回 同日 午後1時30分～2時30分

※参加はどちらか1回のみとなります。

対象：小学1～6年生（各回15名まで）とその保護者

※申し込みについては美術館HPまたはチラシをご覧ください。

- ・ 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2月20日（土）午後2時～

会場：県立美術館 特別展示室 ※常設展チケットが必要です。

## コレクション企画 — 命をめぐる物語 —

日時：平成28年1月26日（火）～3月6日（日）

休館日：月曜日

場所：山梨県立美術館 特別展示室

観覧料：一般510（420）円・大学生210（170）円

※常設展チケットでご覧いただけます。（ ）内は20名以上の団体料金、宿泊者割引料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

65歳以上の方は無料・障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方1名が無料

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 新収蔵品展 お宝そろいぶみ

谷崎潤一郎・芥川龍之介・村岡花子・山本周五郎・太宰治ほか

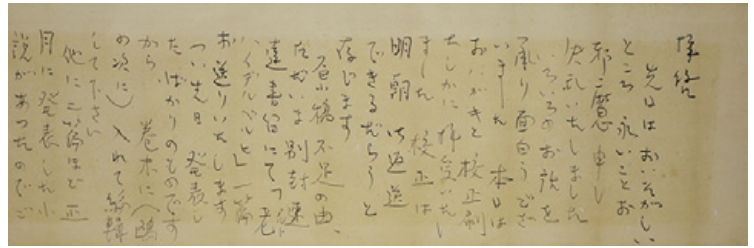
県立文学館

### 1 ご支援ありがとうございます

山梨県立文学館では、1989（平成元）年の開館以来、山梨県出身やゆかりの文学者の資料を収集・保存し、公開してまいりました。今年も県内外の個人や団体から貴重な資料を御寄贈、御寄託いただきました。本展では新たに受け入れた資料を中心に約80点（購入資料も含む）を展示いたします。

### 2 みどころ

山梨鈴木助成事業財団から寄贈していただいた資料は、1940（昭和15）年に太宰治から竹村書房の店主竹村坦に宛てた書簡です。同年4月に竹村書房から刊行された単行本『皮膚と心』の出版に関する内容ですが、本書には甲府の湯村温泉を舞台にした「美少女」が収められています。



太宰治 竹村坦宛書簡（部分）

寄託資料の中にも、作家を影で支える編集者に宛てた書簡があります。文豪谷崎潤一郎は戦前「源氏物語」の現代語訳を行っていますが、その担当編集者が山梨市出身の石井秀平でした。中央公論社の編集者だった石井に宛てた書簡からは、作品執筆や刊行の舞台裏が窺えます。

また毎年、小説や随筆等の直筆原稿を受け入れています。今年も大月市出身の山本周五郎や甲府市出身の村岡花子、御坂峠や増富温泉など山梨の各地を訪れた井伏鱒二らの作品が揃いました。山本周五郎の小説「おさん」は1961年に発表された代表作の一つで、200字詰め原稿用紙180枚にペンで書かれています。村岡花子と井伏鱒二の原稿は、ともに随筆作品ですが、いずれも随所に加除訂正が施されており、文章に対する作家の強いこだわりを感じさせます。

このほかにも芥川龍之介の書簡、俳句雑誌「雲母」編集に関わる資料、笛吹市出身の歌人鈴木孝が師事した窪田空穂や植松寿樹らが揮毫した軸装などを展示します。

皆様の御支援により、新たに仲間入りをした資料の数々を是非御覧ください。



山本周五郎「おさん」原稿

### 新収蔵品展 お宝そろいぶみ 谷崎潤一郎・芥川龍之介・村岡花子・山本周五郎・太宰治ほか

日時：平成28年1月23日（土）～3月21日（月・振休）

場所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

休館日：3月21日を除く月曜日

観覧料：無料

問い合わせ先：山梨県立文学館 TEL 055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!



## 第13回「わたしたちの研究室」作品展を開催します

県立考古博物館

### 子どもたちの力作集まる！

考古博物館では、平成28年2月9日（火）～3月6日（日）の期間に第13回「わたしたちの研究室」作品展を開催します。

「わたしたちの研究室」は小中学生のみなさんが夏休みの自由研究や学校での総合的な学習の時間に取り組んだ歴史・考古学に関する研究成果を当館のエントランスや展示室で紹介するもので、今年で13回目を迎えます。

対象となるテーマは土器や石器といった数千・数万年もの昔にさかのぼるものから、大正・昭和にかけての、わたしたちの生活に直接関わるものまで広範囲にわたります。

これまでも自分たちの手で竪穴住居を作った記録や、近代の偉人に関する資料館を訪ねて調査したことをまとめたものなど、子どもたちが自由な発想で研究した成果が寄せられています。



昨年の研究成果発表会の様子



第12回展示風景



選考会の様子



昨年の表彰式の様子

本研究室では作品展に先立って、応募のあった作品の選考会を行い、2月7日（日）には特に優秀な成績をおさめた児童・生徒を対象とした表彰式・研究成果発表会を開催します。選考にあたって重視しているのは、実際に現地へ赴き自分の足で調査・考察する過程です。本やインターネットから間接的に得た情報だけでなく、本物に出会い、触れた実体験を通して自分なりに考えた成果に注目しています。これにより、児童・生徒の考古学への興味関心を深めるきっかけを作るとともに、自ら調べ・考え・まとめる力をつけることで、「調べ学習」から一歩進んだ主体的な研究活動につなげる機会を提供したいと考えています。

未来の研究者たちによる柔軟な発想によって生まれた貴重な成果を、一人でも多くの方に知っていただく機会となれば幸いです。

### ◆第13回「わたしたちの研究室」作品展◆

会 期：平成28年2月9日（火）～3月6日（日）

観 覧 料：無料

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

関連HP：<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

## 平成27年度冬期シンボル展 「天の虫のおきみやげー山梨の養蚕信仰ー」

県立博物館

### 1. 全国有数の養蚕地帯だった山梨

かつて、山梨は全国有数の養蚕県でした。昭和50年(1975)頃まで、養蚕をしつつ稲作・畑作を行うのが山梨のごく普通の農家のあり方であり、そのような暮らし方が住まい方や祭り・年中行事にまで、大きな影響を与えてきました。養蚕は、山梨の民俗文化の基盤でもあったのです。



道祖神祭りに奉納された養蚕用のザル

### 2. 蚕を「養い」、蚕で「稼ぐ」

江戸時代の養蚕の技術書である『養蚕秘録』には、蚕は「神蚕」であって感情を持ち、普通の虫とは違うと性格づけられています。蚕は神聖な虫と考えられ、それゆえに養蚕には様々な言い伝えや禁忌が付きものでした。一方、養蚕農家にとっての蚕は、繭によって現金収入をもたらすという点で大切な存在であり、飼育技術の向上に心血を注ぎ、より便利な用具を開発してきました。近代以降の人々が養蚕にかけた努力と熱意は『養蚕日誌』などからも知ることができますが、そこには「神の虫」というより、家畜として蚕を扱う様子が際立ちます。養蚕には、産業としての現実世界と、伝承による民俗世界の二つが重層的に存在していたことがうかがえます。



鼠除けの「お猫さんのお礼」

### 3. オカイコどっさり大アタリー山梨の養蚕信仰ー

山梨の養蚕業は1960年代後半から劇的に衰退し、その変化は民俗にも大きな影響を及ぼしました。結果として失われた養蚕信仰もありますが、養蚕信仰の名残は今でも多く見ることができます。身近なところでは、小正月の道祖神祭りの時に作られるマユダマ形の団子で、繭の豊作の願いが込められています。また、路傍の石造物には「蚕影山」と刻まれたものがありますが、これも養蚕の神をまつたものです。身近な祭りや行事を深く知ることで、山梨の人々がいかに養蚕業を大切に思い、重要視してきたのかを実感することができます。

### 4. 新しい「蚕業」のはじまり

日本の養蚕業の衰退は著しく、養蚕が作り出した民俗世界が遠い昔話になる日は近いのかもしれませんが、しかしながら、歴史ある養蚕業には膨大な蚕研究の蓄積があります。現在、それらと遺伝子組み換えなど最新の科学技術が結びついて、新たな「蚕業」の可能性が生み出されようとしています。長い時をかけて自然と人が作り出した「養蚕」が、再び未来を拓く力となるのかもしれませんが。

### 平成27年度冬期シンボル展 「天の虫のおきみやげー山梨の養蚕信仰ー」

日時：平成27年12月16日(水)～平成28年2月29日(月)

休館日：毎週火曜日、12月24日(木)～1月1日(金)、1月12日(火)～15日(金)

観覧料：一般510円、大学生210円 常設展観覧料でご覧いただけます。

小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料です。

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP：<http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!



## 山梨近代人物館

学術文化財課

### 近代郵便制度の創業者 — 杉浦 譲 (すぎうら ゆずる) —

我が国の郵便制度を整えた人物を問われれば、多くの人は新潟県出身の前島密と答えるでしょう。前島は郵便制度の創設を建議し、1円切手の図柄にもその肖像が使われている「郵便の父」として知られています。しかし、前島はイギリスへの出張で郵便制度のスタート時にはその責任者の地位にはなく、代わりに駅逓権正として郵便制度創設の実務を担ったのが、甲府出身の杉浦譲だったのです。

杉浦は甲府勤番同心の家に生まれ、徽典館に学び助教授を務めたのち江戸に上り、幕府の外国奉行に勤務します。文久3年(1863)から翌年にかけては、横浜鎖港談判使節団の一員として、慶応3年(1867)には徳川昭武(15代将軍慶喜の弟)を代表とするパリ万国博覧会派遣使節の一員として、2度ヨーロッパに渡っています。幕府が倒れたのち、杉浦は推されて明治政府に勤めるようになりますが、それは彼の優秀さとともに、こうした豊富な国際経験を買われてのことであつたと思われま



杉浦 譲  
【山梨県立博物館蔵】

郵便制度の創設に臨んでは、杉浦は前島とともにこれにあたり、前島の出張後はこの事業の責任者として、制度設計やインフラ整備、ポストや切手などの意匠の制定、従来の「郵便」業者である飛脚たちへの対応など、さまざまな実務を担当しました。このような杉浦の総指揮と奮闘により、明治4年(1871)3月1日(旧暦)、日本で最初の官営郵便事業が東京と大阪の間で開始されました。

定期的かつ一定料金で、その後日本全体をカバーしていく郵便事業の創設は、日本の通信に大きな革命をもたらし、その後の日本の近代化に大きく貢献していきました。

郵便事業開始の直後に、杉浦は初代の駅逓正となり、その後も官営富岡製糸場の建設や地租改正に尽力するなど、明治政府の推し進める近代化政策に欠かせない官僚として活躍しましたが、明治10年(1877)に突然の病に倒れて急逝します。志なかばで倒れたこともあり、杉浦はその大きな功績ほどに評価されていない面もありますが、山梨が輩出した「近代郵便の創立者」と言える杉浦譲の業績を、ぜひ山梨近代人物館で振り返ってみてください。



1864年に杉浦ら横浜鎖港使節が立ち寄ったエジプトのスフィンクス前で撮影した記念写真(国立国会図書館蔵『日本人(第3次)』34号より)



甲府市の遊亀公園に建っている「初代駅逓正杉浦譲顕彰碑」



## 山梨の文化財

学術文化財課

### 県指定有形文化財（考古資料） あんどうじいせきしゅつどひん 安道寺遺跡出土品

平成27年9月14日指定

安道寺遺跡出土品は、甲州市塩山にある安道寺遺跡から出土した縄文時代中期（約5,000年前）の土器8点です。安道寺遺跡は昭和51(1976)年に山梨県教育委員会により発掘調査が行われ、縄文時代中期の竪穴住居跡19軒などが発見されています。

17号住居跡内の土坑どこう（人為的に掘られた穴）から出土した深鉢型土器ふかばちがたどきと水煙文土器すいえんもんどき、4個の水煙文土器の把手は同一の土坑に埋納されたもので、完全な形の深鉢型土器を水煙文の把手4個で囲い、さらに分解した水煙文土器の破片で覆われた状態で出土したことから、水煙文土器を用いた「まじない」の儀式を行ったものと考えられます。また、完全な形に復元された水煙文土器は高さが83cmにもなる大型の土器で、立ちのぼる水煙を思わせる文様は見る者を魅了する優美さを宿しています。

8号住居跡から出土した有孔鏝付土器ゆうこうつばつきどきにはとぐろを巻くへびの文様が描かれ、11号住居跡内の土坑から出土した小型の深鉢型土器にはイノシシの顔を写実的に表現した把手が付けられています。毒を持つへびや子どもをたくさん産むイノシシは、縄文時代の人々には特別な力を持つ存在であり、土器の中の食料に対して腐敗防止や豊穡の願いが込められていたと考えられます。

安道寺遺跡出土品は、山梨県立考古博物館で収蔵・展示されています。



水煙文土器



有孔鏝付土器



小型深鉢型土器

## 家読(うちどく)ポップ作品を募集します！

社会教育課

「しなやかな心の育成プロジェクト」の一環として、社会教育課では、「家読(うちどく)推進運動」に取り組んでいます。「家読(うちどく)」とは、一冊の本(絵本)を通して、家族のコミュニケーションをより豊かにしようという取り組みです。

今年度も、子どもたちといっしょに読みたい本、読んでもらいたい本などを紹介した「家読100選」パンフレットをリニューアルし、3歳児(入園児)、小学校1年生、3年生、5年生、中学校1年生全員に配布させていただきました。選定図書の変更はありませんが、今回のパンフレットの特徴としては、昨年度行った「家読ポップ展」の入賞作品を掲載させていただきました。県のHPからも全種類のパンフレットがダウンロードできますので、ぜひご覧ください！



また、今年も家読(うちどく)ポップ作品を募集しますので、皆様の応募をお待ちしています！

～家読(うちどく)ポップ作品募集内容～

### 1. 趣旨

家族のコミュニケーションを深める「家読」をさらに推進していくため、自分や家族におすすめしたい「私の一押し本」を紹介するポップを募集する。

### 2. 募集内容

#### (1) テーマ

「家読100選」パンフレット内で紹介している図書、またはそれ以外の図書の中から一番おすすめしたい図書の紹介

#### (2) 応募資格 山梨県内に住んでいる人

#### (3) 部門

- ①一緒に読みませんか部門……一人でも応募が可能
- ②家族で読んだよ部門……家族(2名以上)で応募

### 3. 応募方法

- (1) 郵送、電子メール、FAXにより、応募票に必要事項を記入の上、事務局(社会教育課)まで送付する
- (2) 募集〆切は平成28年1月20日(水)当日必着

### 4. ポップ展の開催

#### (1) 展示場所 防災新館1階オープンスクエア東側

#### (2) 展示期間

平成28年2月10日(水)～2月12日(金)

\*表彰式は2月11日(木)祝日

\*詳しくは県HPをご覧ください。募集要項・応募票・募集チラシをダウンロードできます。